

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290500022		
法人名	有限会社 グループ 春の日		
事業所名	グループホーム 春の日		
所在地	千葉県千葉市緑区誉田町1-794-17		
自己評価作成日	平成28年10月17日	評価結果市町村受理日	平成29年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成28年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ご入居者が家庭的な環境で日々笑顔で生活できるよう、職員は事業所理念である「ゆとり」を念頭に意識し、支援させて頂いている。 ・早期発見、早期治療の実現に向け、協力医療機関とも連携強化を図り、ご入居者様の安心に努めている。 ・ご家族、近隣者等の面会しやすい環境作りを意識している。 ・町内会活動にも参加させて頂いている。(盆踊り大会、敬老会など) ・年間計画で毎月のカンファレンス、2ヶ月に1回の全体会議でご入居者様の状態変化の把握、職員の研修を介護職員主体で実施している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホーム全体でのカラオケ大会、納涼会などのイベントで両ユニットの利用者同士、職員同士が顔を合わせる機会も多い。職員は全利用者様の様子を把握しているため、非常災害時の対策にも安心感がある。また食事会など職員間の交流の機会も多いので、相互に意見も出しやすく早めの改善につながっている。薬剤管理表をはじめ書類・書式が整っているため、職員は細部にわたって目配りすることができ、事故防止に役立っている。今年度は第1回家族会を開催したが、今後年2回のペースで開催を予定する等、さまざまな意見を踏まえてより良い支援ができるよう努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員全員が事業所理念の「ゆとり」を意識して、日々実践につなげられるように努力している。	理念の研修は業務ミーティング時に行い、管理者と職員で共有している。職員は日々の業務の中で理念である「ゆとり」を意識し、利用者の自主性を待つなど実践につなげている。家族には入居時に説明し理解を得ている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会長、民生委員など定期的に顔を出していただき、声を掛けて下さる。 ・年に1回地域交流会としての催しなどを実施している。	自治会に加入し、地域の情報・行事などを把握し参加しており、近隣公園の夏祭りには自治会がテントの用意をしてくれる。またホームの納涼会にはボランティアグループの参加や、近所の武道館の子供たちの来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の方からのご連絡、来訪時によるご相談等には積極的に応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・現在、3ヶ月に1回の開催の中で災害対策で事業所を一時避難場所として提供することが決まり、地域との連携強化に努めている。 ・会議内容は全職員に閲覧できるようにしている。	年4回開催の運営推進会議には自治会長・民生委員・地域包括支援センターからの参加がある。日常生活の報告・相談の他、災害時の避難場所として地域の高齢者を受け入れることなど、防災対策・避難訓練なども話し合いがされ共通理解を得て今後につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・担当区域内の介護保険課、社会援護課、障害福祉課とは何かあった際は相談にのって頂いている。 ・ご入居者様に対しての相談もあんしんケアセンターで相談にのって頂いている。	区役所や地域包括支援センターとは書類の提出や制度・法令の問い合わせ、困難ケースの相談をしたり介護相談員の受け入れなども行っている。また生活保護者の受け入れも多数あり、担当部署との連絡も密にするなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・施設として身体拘束をしないという基本方針を全職員が理解している。 ・年1回は施設内研修の中で外部研修に参加していただいた職員を主に知識、理解に努めている。	言葉による拘束を含めた身体拘束や虐待についての研修を行っており、職員が理解している。事故防止のためにフロアのドアにセンサーは付けているが、玄関や門扉は施錠しないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・毎年高齢者虐待マニュアルを参考に勉強会を実施している。 ・ご入居者様の状態観察、職員のメンタル低下などにも注意を払っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・定期的に勉強会を実施し、理解を深めている。 ・必要性に対しても話し合いを行い、必要であれば支援できる体制はできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・十分な説明を何度も行い、ご理解、ご納得を頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族の来訪時には状況報告等を積極的にさせていただき、意見や要望等にも耳を傾け、サービスに反映できるようにしている。 ・面会時に気軽に記載などできるように玄関付近に意見箱を設置している。	今年度初めて家族会を開催し、家族との意見交換をすることができた。家族には3か月ごとに送る「春の日新聞いきいき」で行事や利用者の様子を報告するとともに、来訪時に現在の状況や意見・要望を聞き運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・全体会議時や個別面談等で意見を聞くようにし、改善出来る事は早期に改善をしている。	業務ミーティングは2か月に1回、夕刻からの開催とし、全員の参加で、意見交換・提案・検討など行っている。管理者は普段から意見の言い易い環境をつくるようにしており、会議を待たずに意見を反映することもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員の個性、チームワークを重視し、経験者他職員と共に創意工夫し、業務に取り組んでいる。 ・職員全体での食事会など年数回開いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員研修内容を年間計画の中で取組み、実施している。 ・新人職員も新人研修マニュアルを作成し、担当責任者を中心に実施している。 ・外部研修にも積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・千葉県グループホーム連絡会へ参加させて頂き、交流の場は設けられている。 ・他事業所との双方での見学会など実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居までの間の不安や入居してからのご要望を聞き入れ、施設側での対応範囲を検討し、安心して受け入れられるように努めています。 ・その方の生活を継続、維持できる環境作りを目指しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・施設側からサービス導入前の面談において三者の関係性(ご利用者様、ご家族様、施設側)の重要性をご説明させて頂き、遠慮なくご相談、悩み事等を話せる関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居依頼時は現在の生活状況、サービス内容、グループホームへの入居希望理由等を伺い、身体状況により、当グループホームでよいのか?その方に合った支援があればご紹介、相談等に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・自分がされて嫌なことはしない。ということを確認し、職員も生活環境の一部という事をしっかり把握した上で、尊重、尊厳を重要視した関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族にはご入居前にご本人、ご家族、施設側とのネットワーク作りの重要性について理解を求めています。 ・施設側として、ご家族の方々に来訪しやすい環境、対応を心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族以外の親族、友人の方の面会も多々ある。 ・ご家族と一緒に馴染みの場所等への外出をされる方が増えてきている。 ・手紙、電話等で関係を維持している方もいる。	手紙や電話での交流を支援するほか、家族への年賀状は、署名だけでも本人に書いてもらうなどしている。家族・友人などの訪問、墓参や年末年始の帰省など馴染みの人や場所との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・日々、体操や食事、レク活動等で入居者同士がふれあう機会を作り、入居者同士が自然に関係作りができるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去された後も、その後の生活に不安等を感じているご本人、ご家族様からのご相談にも積極的に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・毎月カンファレンスを行う中で普段一番関わりがある職員からの情報提供、ご本人の意向、ご家族の意向を擦り合わせ支援に生かすようにしている。	職員は日常の会話の中から本人の思いを聞いたり感じ取ったりするよう努めている。家族等の意向は訪問時に聞くようにしている。把握した意見や希望については毎月のカンファレンスで話し合い職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご入居前の生活についても常に情報収集に努め、少しでも馴染みの暮らしに近い生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・個別記録で日々の生活の経過が分かるようにしている。 ・業務ミーティング、カンファレンス時でも情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人、ご家族の意見、ご要望等を伺った上で、カンファレンスを実施し、介護計画を作成している。作成時はご本人、ご家族にも確認、同意を得ている。	本人の希望を把握したうえで現状に沿った介護計画書を作成している。訪問が難しい家族には電話で聞き取りを行うこともある。作成した介護計画書は家族に確認してサインをもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別記録の記入の仕方は、職員全体で共通認識をもって記入していくことにしている。その為に年に数回はミーティングで話し合いを行う。 ・ケアプラン作成、モニタリングをする際にも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・個々のご要望、ご家族のご要望等に関しても相談援助は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・町内会、民生委員、近隣住民の方々にも催しなどの機会には声を掛けさせていただき、参加して頂き、施設の存在を認識して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医療機関からは月2回の往診をして頂き、健康管理をして頂いている。 ・他の医療機関を受診した方が良い場合も協力医療機関より紹介状を頂き、受診をしている。	月2回の往診の他、毎週訪問歯科を利用している。外部受診が必要な利用者には家族に代わって職員が無償で通院同行しており受診結果は電話で家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・医療連携で協力して頂いている訪問看護ステーションと定期的な健康管理、医療機関との連絡調整に努めて頂き、24時間体制で入居者様が適切な受診ができるような支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時以降もご家族との連絡、相談等定期的に状態を確認させて頂き、その際は主治医とも情報交換をし、退院時のスムーズな受け入れができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時に事前指定書として、書面の取り交わしをし、施設としての指針を説明してご理解を頂いております。その内容を協力医療機関にも報告し、情報の共有を図っています。書面の取り交わしは何度でもできるものとし、ご本人、ご家族の意向を尊重できるよう、医療機関、施設側も交えて何度も話し合いをするようにしています。	入居時に看取りに関する事前指定書およびホームの指針を書面で説明し、家族と方針を共有するよう努めている。体調の変化があったときはその都度話し合いながら確認を行っており、情報は医療機関にも報告して協力を得ている。	利用者が年々高齢化していくことを考えると、職員は看取りに関する研修を定期的に行い理解を深めておくことが大切と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・対応方法のフローチャートが準備されており、それをもとに定期的に研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の消防訓練を火災、地震想定で(昼間、夜間)と分けて実施している。そのうち1回は消防署立ち合いで実施。	定期的に年2回の防災訓練を行っている。加えて今年度は地域住民も参加の救命救急講習を行う予定だったが、欠席者が多く実施することができなかった。備蓄品に関してはホームと併設のデイサービスの利用者分を合わせて三日分の食料を準備し、誰もがわかるように表示して保管している。	今後も引き続き、地域住民の参加を促す工夫をしていくことが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・入居者様には人生の先輩という認識を持って関わるように意識している。 ・同性介助を望まれる方への柔軟な対応をとっている。	同性介助を希望する利用者には意向に沿うようにしている。また、利用者と同じ目の高さでゆっくり話すように心がけており、ホームの理念である「ゆとり」を感じるような対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・主体性を持った関わりの中で、わかりやすい説明、自己決定しやすい関わり方を意識している。 ・職員は業務優先になることなく、柔軟な対応がとれるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・職員は業務優先ではなく、一人一人の生活のリズムを知り、柔軟な対応をとるよう、意識し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ご本人、ご家族の意向を取り入れ、ご本人の好みの物を使用して頂くようにしている。 ・2ヶ月に1度訪問理美容サービスの方々が来所され、ご希望者は活用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・一般食、カロリー食、やわらか食、透析食などその方の状態に合わせた食事が提供できるように支援している。 ・食前、食後は職員と一緒に準備、後片付けを手伝って頂いている。 ・定期的に外食行事を行っている。	食材の業者から取り寄せるものに加えて職員がご飯とみそ汁をつくっている。食事の形態は利用者に合わせてムース食なども提供している。ファミリーレストランなどに出かけることもあり、食事が楽しくなるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・個別に食事摂取量、水分摂取量等をチェックし、状態把握に努めている。 ・糖尿病、透析を受けている方々にも制限食の実施。水分制限の管理もさせていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・ご入居者様全員の方々には毎食後の口腔ケアを実施している。 ・週1回訪問歯科による口腔状態の把握もして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日中、夜間共にご本人の意思を尊重し、トイレに行かれる方はトイレでの排泄を促している。 ・夜間、排泄での失敗に不安のある方にはポータブルトイレを使用している。 	利用者一人ひとりの排泄の記録をつけることで排泄リズムを把握し、おむつを減らすなど自立に向けて支援している。必要に応じてポータブルトイレも利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・医師に相談しながら排便コントロールができるように下剤の調整をさせて頂いている。 ・水分摂取を積極的に促すようにしている。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・曜日、時間帯を希望に添えるように予定し、実施している。 	回数を固定するのではなく、利用者の希望や状態に合わせて曜日と時間を決めていく。外出して入浴できなかった日は翌日に予定するなど臨機応変に個々に合わせて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の生活習慣(休息、睡眠パターン)を把握し、昼夜逆転等の生活リズムが変わらないように支援している。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者全員の服薬内容を一覧にし、いつでも処方内容が確認できるようにしている。 ・職員による誤薬事故等がないように内服時はトリプルチェックを実施している。 ・異常の早期発見に努め、医療機関への連絡体制をしっかりとっている。 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様には個々に役割を持って過ごして頂けるよう、支援している。 ・行事レク、個別レク活動等も計画し、楽しみや気分転換を図って頂けるようにしている。 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個別にその方の希望に沿って、散歩や病院、買物等外出できるよう、支援している。 ・施設行事で普段は行けないような所への外出支援やご家族と一緒に食事、買い物などされている。 	ハガキを出しにポストまで行ったり、自動販売機にジュースを買いに行くなど、ちょっとしたことをきっかけにして散歩を増やすようにしている。また、大型スーパーに出かけたり、動物公園、水族館、いちご狩りなど外出の機会をつくっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・入居者様の中には自己管理されている方もいる。その他の方は施設管理させていただき、必要な時にご本人に渡したり、職員が買い物等に同行し、お金を使用できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・施設内には基本電話の使用は自由としている。個々に携帯電話をお持ちの方もいるのでその方々は個別に使用して頂いている。 ・定期的に手紙や年賀状等のやりとりもできるように、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・美化委員を設置し、担当者を中心に環境整備(施設内、施設外、玄関等)に努めている。 ・リビング内のテーブルなどは席順など配慮し、不快な思いがしないようにしている。	美化委員が中心となってワックスがけなどの計画を立てており、共用空間は清潔で整備されている。季節ごとに利用者が作成した作品を飾り季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共用スペースにはソファに座りながらテレビ、DVD、カラオケ等使用できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室は余裕を持ったスペースを確保しています。(収納場所も大きくとっている) ・私物は馴染みの物を持参して頂き、配置はご本人ご家族と相談して決めて頂いています。	利用者ごとに居室のレイアウトを考えて居心地よく過ごせるようにしており、中にはじゅうたんを敷いて座る生活をしている人もいます。収納スペースが広く、ゆったりと過ごせる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・共有スペースには、自立した生活を送れるように手すり、呼び出し装置も設置している。 ・個々に必要と思われる方々には福祉用具の活用もすすめ、安全面でも配慮している。		